

芦安小学校前期自己評価書

■学校教育目標

郷土を愛する心と夢を育み 未来を拓く人づくり

■評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ. 学校運営・学校経営」、「Ⅱ. 学習指導」、「Ⅲ. 生徒指導」、「Ⅳ. 保護者・地域との連携」、「Ⅴ. 学校の特色ある取組」の5領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童・保護者）を行った。

質問に対する回答選択肢は基本的に4段階である。

A：そう思う B：ややそう思う

C：ややそう思わない D：そう思わない

このうちAとBは肯定的なプラス評価、CとDは否定的なマイナス評価である。

A・B・C・Dのそれぞれの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点をもとめた。

・全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は3点以上になり、4点に近づいていく。

・全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2点以下となり、1点に近づいていく。

教職員数ならびに保護者、児童数ともに、アンケート数は少ないが、2学期以降、共通理解して取り組む必要があることが明らかになったものがある。

■全体評価

アンケート調査の結果から、児童・教職員・保護者をあわせ、すべての項目でプラス評価の傾向となっている。これは芦安小学校の教育活動が、保護者や地域の理解と協力を得ながら、効果あるものとなっていることや、児童が充実感と向上心をもって学校生活を送っていることが、全体の傾向として見てとれる。

児童のアンケートの結果から、多くの児童が、「学校は楽しい」（評価3.0）、「先生は、声をかけてくれ、話をしてくれる」（評価3.6）と肯定的な回答をしている。また、教職員の自己評価アンケートにおいても、「児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めている」（評価3.3）と高い評価であった。

児童のアンケートでは、「授業はわかりますか」は、評定3.2であるが、「授業は、楽しいですか」は、評価2.6と低い結果になった。「楽しく分かる授業」づくりを今後も目指していく必要がある。他の項目でも、児童の中に少数ではあるが否定的な評価もある。このことには、引き続き留意し、全教職員で取り組んでいかなければならない。

保護者アンケートから、「小中一貫の取組」についての評価項目は、評価3.3と肯定的な評価であった。本校の特色でもある小中一貫した教育活動と、地域連携を柱とした「芦安郷育」をこれからもより一層推進していきたいと考える。

■<これからの重点課題>

①小規模校・小中一貫教育のよさを活かし、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りながら、児童が主体的、意欲的に学ぶ教育活動の充実を図る。

児童アンケートの結果から、「学校が楽しい」(評価3.0)、「授業がわかる」(評価3.3)「先生や、友達の話をしっかり聞いている」(評価3.3)という答えが多く、高い評価であった。学級担任により「一人ひとりの実態に合った学習指導」、全職員により小規模校の利点を活かした「児童一人ひとりに対するきめ細かな指導」をおこなってきた成果の一つと考えられる。

今後も、小規模校という本校の利点を活かし、一人ひとりの実態に合った指導を工夫しながら基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていきたい。

また、本校には小中一貫した「学びのルール」と主体的・対話的な学びのある授業づくりのための「あしやすスタンダード」がある。これをさらに充実・発展させながら、授業改善をすすめていきたい。

今年度の校内研究のテーマは、「「学び」を大切にしたい授業の創造～「主体的・対話的で深い学び」の小中一貫教育による追究～」である。「学びを大切にする」ことを中心に据えて、日々の一時間一時間の授業の改善に取り組んでいる。

また、保護者アンケートの質問項目「宿題以外にも家庭学習をしているか」(評価2.7)に課題がある。家庭学習は学力向上への大きな鍵となる。学校では、児童に家庭学習のやり方の指導をしたり、家庭学習と授業を関連付けたりしていく。また、「家庭学習の手引き」を保護者にも活用してもらうとともに、保護者との連携・協働をしながら改善を図っていく。

②「芦安郷育」「小中一貫教育」を柱とした、豊かな体験活動の充実・展開をより推進し、地域や家庭との連携を深めながら、さらに特色ある学校づくりに努める。

教職員アンケートの「学校の特色ある取組」について、肯定的評価が高くなっている。小中9年間を見通したユネスコスクール加盟校として、自然体験やESDへの取り組みを意識した「芦安郷育プログラム」を中心に、豊かな学習・体験活動が有効であることが分かる。

「芦安郷育」「小中一貫教育」は、保護者や地域の多くの方々、そして芦安中学校に支えられている。他者と関わりやふれ合いは、児童に夢やあこがれを育むものである。これからも、学校教育目標を見据え、児童の実態を分析し、育みたい児童生徒に近づいているか、しっかりとした総括をする中で、芦安小学校のグランドデザインを特色づけている「芦安郷育」「小中一貫教育」のさらなる推進を図っていく。

地域や家庭との連携・協働の推進のためには、情報共有が大事である。教職員の自己評価「保護者・地域への願い・要望を聞く工夫と情報収集」では、取組の余地を残す。これからも、保護者・地域と学校の目指す理念を共有し、信頼される学校であるためにも、さらなる情報収集や情報共有に努め、家庭や地域との連携・協働を一層進めていきたい。